

『嫌いな人』 作：ポチ子

嫌いな人が、私の悪口を言っていたらしい。

嫌いな人に嫌われたって、

なんの問題もないはずなのに、

酷く傷ついた。

今だって、

そいつの悪口を言って盛り上がっていた。

それなのに自分が言われる側になった途端、

悲しい気持ちになった。

お前に言われたくないと、

腹が立ったわけじゃない。

純粹に嫌われたくないと思ってしまった。

嫌いな奴に嫌われることすら怖いのだ、私は。

どうしてそんな風に思うのか、

自分でもよく分からない。

嫌いな奴に好かれたいのかと問われたら、

違うと答える。

でもなぜか嫌なのだ。

自分はその事の事が嫌いでは仕方ないのに、

同じように思われるのは、酷く怖い。